

## 今月のみことば 2017年6月

「ある人にふたりの息子がいた。その人は兄のところに来て、『きょう、ぶどう園に行って働いてくれ』と言った。兄は答えて『行きます。お父さん』と言ったが、行かなかった。それから、弟のところに来て、同じように言った。ところが、弟は答えて『行きたくありません』と言ったが、あとから悪かったと思って出かけて行った。ふたりのうちどちらが、父の願ったとおりにしたのでしょうか。』彼らは言った。「あとの者です。」(マタイの福音書 21章28～31節)

### 信仰か行いか

「イエスを信じればだれでも救われる」というメッセージを聞いたときに、あなたならどう反応するだろうか。クリスチャンであれば、その通りだ、と思う人が大多数かもしれない。しかし、実は間違った理解をしている人が多いのも事実である。

信じる、とはどういうことか。また、救われるとはどういうことなのか。

「信じる」というのは、単に事実を事実として受け入れることではなく、全面的により頼むことをいう。

したがって、「神を信じる」というのは、神が言われることであれば、四の五の言わずに従う、ということである。自分の考えを捨て、神が言われたとおりにする、ということである。

救われる、というのとは、心の平安のことではなく、永遠の滅びに行かないですむ、という重大事を指す。

上記の箇所では、兄息子は返事だけは良かったものの、父親からの頼みを行わなかった。それとは反対に、弟息子はぶしつけな応答をしたことが後で恥ずかしくなり、父親の頼みを実行した。

それでも兄息子の立派な返事だけは賞賛に値するのだろうか。答えは明らかに否である。ある意味ではもつとたちが悪いと言えよう。弟息子は、返事こそひどいものであったが、自分の考えを捨て、父の願いに応えた。どちらが父の心になかったのかは明白である。

ひるがえって、私たちはどうであろうか。「神を信じている」と言いながら、結局は自分の思いのまま行動しているなら、兄息子となんら変わるころはない。



クリフ・リチャードという世界的なクリスチャン歌手がいる。彼はある時、音楽フェスティバルで主催者から「マイ・ウェイ」(My Way)を歌うように頼まれた。よく知られているように、「すべては心のきめたままに」(I did it my way. 私は自分のやり方で行なった)というリフレイン(繰り返し)が情感をこめて熱唱される有名な歌である。曲目を前もって知らされていなかった彼は、いまさら断ることができない立場に置かれた。彼はどうしたか。何と、I did it my way.の部分を I did it His way. (私は神の方法で行なった)と一語を変えて歌ったのである。

演奏は素晴らしいものであったが、終了後、「著作権の関係」で、二度とそのような「替え歌」を歌わないようにと嚴重注意を受けたそうである。後にも先にも、「マイ・ウェイ」が「ヒズ・ウェイ」として歌われたのはこの一回だけである。

しかし、何という生きた信仰の証詞であろう。私たちにも「信仰」を裏づける「行い」が自分の生活の中になければならない。なぜなら、もしそうでないと、私たちは「救われて」いないかもしれないからである。

